

図書館及び図書の資料、学術情報

達成目標

大学・大学院の学生が学修・研究するために十分な図書・学術雑誌・視聴覚資料を揃え、学生閲覧室の座席数・開館時間などの利用環境の充実、学術情報の提供システムの整備などが行き届いていることを達成目標とする。また地域への図書館の開放については女子大学という特殊性があるものの、できる限り地域市民（稲城市）への本学図書館の開放をめざしていきたい。

〔図書、図書館の整備〕

〔現状の説明〕

（図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他）

本学図書館が現在時点で保有する図書の冊数は、「大学基礎データ」（表 41）に見られるように、学部と大学院研究科と短期大学を合わせて 87,591 冊である。うち開架図書の冊数は 83,300 冊である。これは、教員の個人研究費により購入された図書等は、図書館に属するが、保管場所が各教員の研究室となっているためである。定期刊行物の種類数は、内国書が 252 種類、外国書が 253 種類の計 505 種類である。また、視聴覚資料の所蔵数は、2971 種類となっている。

（図書館施設の規模、機器・備品の整備状況）

本学の図書館の面積は、4,889.88 m²であり、うち博物館施設が 404.50 m²、学生閲覧室が 2,303 m²、視聴覚スペースが 140 m²、書庫が 232 m²、図書収容能力は 237,000 冊となっている。機器・備品については A V 機器 41 台、コピー機器 2 台が設置されている。情報検索等に利用できるパソコンは、6 台設置され、また図書の自動貸出機も 2 台設置されている。

（図書館利用者に対する利用上の配慮）

「大学基礎データ」（表 43）に示されているように、学生閲覧室の座席数は 324 席である。大学院・大学・短期大学を含めた学生収容定員は 2416 人であるため、収容定員に対する座席数の割合は、13.4%となっている。一日あたりの入館者数は、教職員その他を含めた、過去 3 年間平均で 159.7 人となっている。また、学生に対する図書の館外貸出件数は、過去 3 年間の 1 日平均 27.7 件、教員の場合は 2.5 件、学外者の場合は 24.6 件となっている。

なお、学生が図書の館外貸出のサービスを受ける場合については、カウンターでの職員の事務対応の他、前述のように自動図書貸出機がカウンター前に設置されており、より簡便で迅速に貸出手続がなされるよう配慮がなされている。

年間の開館日数は平均 249 日、開館時間は 9 時から 17 時 40 分まで、土曜日は 15 時 40 分までとなっており、日曜・祝日・春夏秋冬の休暇中、および大学の指定する日は、閉館となっている。

図書館ネットワークの整備に関しては、国立情報学研究所の NACSIS-IR、国会図書館、

東京大学図書館、東京西地区の各大学等と連携し、図書・資料等に関する情報交換や、文献複写サービスや相互貸借サービスをおこなっている。

（図書館の地域への開放）

図書館の地域への開放については、女子大学としてのセキュリティ等の問題もあり、現在のところ限定的に行っている。すなわち、これまでは稲城市の公共図書館等紹介状のあった市民を対象に館長が許可をして利用ができるようになっている。

この地域一般市民への開放の問題については、平成 16 年 8 月に稲城市立図書館長ならびに担当職員が来館し、稲城市民の本学図書館の利用に関する打診があり、以後協定を結ぶための話し合いがもたれている。本学としては地域への公開について積極的に協力していく方針であり、具体的には本学図書館の蔵書に関するデータベースの稲城市への提供、蔵書の貸し出しサービス等について検討中である。

〔点検・評価〕

（図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他）

本学は、開学以来 12 年と比較的新しい小規模の大学であり、また、進行年度中の学科が 2 学科、大学院人文科学研究科の臨床心理学専攻も進行年度中ということもあり、研究上の図書・学術雑誌などの資料は必ずしも多いとはいえない。しかし、過去 3 年間の受け入れ状況を見ると、「大学基礎データ」(表 42) に示されているように、平成 13 年度 6,604 冊、平成 14 年度 6,114 冊、平成 15 年度 6,863 冊と、図書は着実に増加している。

（図書館施設の規模、機器・備品の整備状況）

本学図書館は、短期大学と共用になっており、より十分な広さの学生閲覧室が求められる。平成 14 年度の増築により、学生閲覧室が 1,109 m²、視聴覚スペースが 40 m² 広げられた。また、図書の収容能力も大幅に上がった。

なお、今後、情報の電子化への対応のため、パソコンを増設することが必要になると考えられる。

（図書館利用者に対する利用上の配慮）

学生閲覧室の座席数は学生収容定員の 10% を超え、一日の平均入館者数に対して十分な座席数を確保している。一日あたりの入館者数に対する図書の館外貸出の利用率が低いようにもみられるが、その主な原因は、AV 機器のみを利用する学生が多いことと、図書を館内で閲覧することが多いためと考えられる。教員の館外貸出件数が少ないのは、各教員に必要な専門図書が各教員の研究室に保管されている場合が多いためと考えられる。

開館時間については、これまで最終授業の終了時（17 時 50 分）以後には利用できなかったのが、大学院の学生をはじめ、放課後の図書館利用のニーズが次第に大きくなっており、これまでの開館時間はやや短いと考えられる。

図書館ネットワークの整備については、情報・資料を相互交換する機関が限定されていることが問題であるが、本学の学生の利用状況から見る限り十分な体制であると思われる。

（図書館の地域への開放）

本学図書館の地域への開放については、現時点ではあまり活発に行われているとはいえないが、前述のように平成 18 年開館予定の稲城市立図書館との相互協力のため、館長ならびに実務担当者レベルで具体的な打ち合わせを行っているところである。平成 17 年 2 月の

本学における稲城市立図書館との会議（稲城市立図書館の館長・事務職員が来館）では、本学のデータベースの提供についてより具体的な検討がなされ、さらに地域住民が本学図書館を利用できるため条件の整備についてより具体的な話し合いがもたれており、本学図書館は地域住民への開放に向けて着実に動き出しているといえるであろう。

【将来の改善・改革に向けた方策】

（図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他）

教育用の図書については、図書委員会が設置され、毎年度各教員に教育用図書の推薦を求めて充実を図っており、その推薦に基づいて図書が購入されており、特別な事情（破格な金額の書籍など）以外であれば、基本的に予算の枠で希望通りの購入がなされている。したがって、こうした点については特に改善すべき点はないが、各学科もしくは学科の各コースの教育課程において重点的に必要な図書や映像資料等の充実をより広い視野で行う必要がある。これまで基本的には教員個人の図書の要望は反映されているが、学科全体の教育課程の構想に基づいて参考図書について検討されることも必要である。各学科の図書委員から学科会等で話題に出される場合もあるが、今後学科会においてより活発で具体的な議論がなされていくことも必要であろう。

（図書館施設の規模、機器・備品の整備状況）

パソコン設置のためのスペースや費用について検討を重ね、平成16年度後期より、学生用パソコンを6台から12台へと増設したのであるが、今後もいっそう充実させることを検討している。

（図書館利用者に対する利用上の配慮）

本学図書館の大きな利用上の問題点としては閉館時間がこれまで早すぎたという点であった。この問題については、平成16年度に理事長と図書館長・図書委員会との協議に基づいて、平成17年度からは閉館時間を19時00分まで延長することになっている。

また、学生の利用を促進するための啓蒙活動として、新入生向けのオリエンテーションで具体的な利用方法について説明を行い、本学のホームページにも電子情報として図書館利用方法を紹介しており、図書館の利用を促す方策を積極的にとっていくことにしている。

この他、図書館ネットワークをさらに整備していくことが必要であるが、今後も、それらの活動をさらに強化し、サービスの認知度を向上させることが必要であると考えられる。

（図書館の地域への開放）

女子大の図書館を学外の地域市民へ開放するという事は難しい課題であるが、大学図書館の地域への開放が進んでいる昨今の状況を顧みると、一定の条件をつけて地域住民へ開放していく具体策を検討しなければならない。現時点ではできるだけ早く本学図書館と稲城市との間に相互貸借の協定を結び、特に本学が比較的豊富に架蔵している仏教書などについて閲覧・貸出のサービスを行っていきたい。

〔学術情報へのアクセス〕

〔現状の説明〕

本学図書館では国立情報学研究所(NII)との協力により国内外の大学資料の情報をホームページ上にある学術情報サービスによって利用することができる。本館は機関別定額制(登録制・有料)のNIIコンテンツサービスを利用し、情報検索サービス(NACSIS-IR)と電子図書館サービス(NACSIS-ELS 平成17年3月31日までの名称、平成17年4月1日からNII論文情報ナビゲータCiNiiに統合される)から情報を得ている。また、NII図書情報ナビゲータ(Webcat Plus 旧Webcat)や大学Webサイト資源検索(JuNii 大学情報メタデータ・ポータル試験提供版)も活用している。

本学図書館は2004年8月に旧LICSU21(NEC)システムから、多言語対応大学図書館システムE-CATS(NEC)システムを新たに導入した。新システム導入により、旧システムでは不可能であったNII学術情報コンテンツにあるデータのハンゲル語、ペルシャ語、アラビア語等多言語に対応することが可能となった。

また本学図書館は東京西地区大学図書館相互協力連絡会に加盟しており、各大学と連絡を密にするための実務担当者会議、および加盟館会議等に出席し大学図書館の情報管理業務に関する情報を得、研修を受けている。

さらに全国の大学図書館との協力において、相互協力の規定に基づき所蔵資料の相互貸借等を行っている。

〔点検・評価〕

現在、文献複写や相互貸借等の以来も少ないことから、NIIの学術情報サービスを利用する学生が少ないと考えられる。また、学生による外国語資料の利用も多言語対応である新システム(「E-CATS」)になっているが現在のところ利用者は格段増加したとは認められない。

〔将来の改善・改革に向けた方策〕

NIIの学術情報サービスをより多くの学生が利用できるように、本学のホームページ上の「図書館利用案内」及びパンフレットなどを通じて啓蒙していくとともに、ゼミ教員等によって実際に研究資料の検索などを行って指導していくことが必要であろう。

なお、本学図書館所蔵の多言語資料の検索利用を促すために図書館と教員が連携し学生に新システムによる検索の指導をしていく予定である。